

## 福岡県公安委員会活動状況

### <定例会の主な議題及び要旨>

令和4年4月28日（木）

#### 【報告事項】

#### 1 令和4年春の勲章伝達式の実施について

（警務部）

警察本部から「令和4年春の勲章伝達式は、5月11日、博多サンヒルズホテルにおいて実施する。式では、勲記・勲章の伝達等を予定している。」旨の報告があった。

#### 2 刑法犯の認知・検挙状況等について（1～3月）

（生活安全部・刑事部）

警察本部から「刑法犯認知件数及び検挙件数は、ともに前年同期比で減少している。認知状況の特徴として、主に非侵入盗や侵入盗が減少している。性犯罪の認知件数及び検挙件数は、ともに前年同期比で減少しており、強制わいせつ、強制性交等ともに減少している。特殊詐欺の認知件数及び被害額は、ともに前年同期比で増加しており、検挙人員及び阻止件数も増加している。認知状況の特徴として、還付金詐欺が全体の3割以上を占めている。」旨の報告があった。

公安委員から「オレオレ詐欺だけでなく、還付金詐欺等の被害についても、65歳以上の高齢者の割合が高い理由は何か。」旨の発言があり、警察本部から「一人暮らしの高齢者等にニセ電話詐欺に関する情報が届きにくく、誰にも相談できないまま被害に遭っている現状がある。引き続き、高齢者の被害を防ぐため、民生委員等の協力を得ながら、注意喚起に努めていく。」旨の説明があった。

公安委員から「ニセ電話詐欺の認知件数80件に対して阻止件数は倍近くの158件となっており、未然防止対策については一定の成果が出ているのではないか。」旨の発言があり、警察本部から「ニセ電話詐欺については、被害者に送金をさせないことが重要であり、金融機関やコンビニエンスストア等の協力を得て水際対策を強化している。」旨の説明があった。

公安委員から「前年同期比でニセ電話詐欺の被害が増加している状況を踏まえ、どのような対策を講じるのか。」旨の発言があり、警察本部から「金融機関等と連携し、各種水際対策と併せてATMの周辺において携帯電話を使用しないよう呼び掛けるとともに、自治体の補助金等を活用した「まっ太フォン」の普及促進、アポ電多発地域の金融機関に警戒強化を呼び掛けるオートコール事業等を更に推進していく。」旨の説明があった。

#### 3 暴力団対策の推進状況について（1～3月）

（暴力団対策部）

警察本部から「暴力団構成員の検挙状況は、前年同期比で減少している。社会復帰対策の推進状況については、離脱支援は前年同期比で減少し、就労支援は前年同期比で増加した。暴力団対策の推進状況は、五代目工藤會傘下組織幹部による暴力団対策法違反事件等を検挙したほか、同會傘下組織事務所2か所及び道仁會傘下組織事務所1か所を撤去した。今後の取組としては、五代目工藤會の壊滅等に向け、未解決重要事件の徹底検挙を図るとともに、官民一体となった暴力団排除施策を推進するほか、公判出廷する証人や被害者の保護対策を徹底するなど諸対策を推進していく。」旨の報告があった。

公安委員から「離脱支援9件に対し、就労支援は1件となっているが、暴力団を離脱しても就労しない者が多いのか。」旨の発言があり、警察本部から「離脱者の就労支援

については、協賛企業への就労は1件であったが、離脱者自身で就労先を見つけるケースもある。」旨の説明があった。

公安委員から「就労先は県内に限られないのか。離脱者が再び暴力団に戻ることがないよう支援を行ってもらいたい。」旨の発言があり、警察本部から「3月末現在、36都道府県の間で広域連携協定を締結し、協賛企業は、県内に昨年末時点で392社、全国では約900社あり、県外の協賛企業への就労支援も可能である。今後も対象者の要望等を踏まえながら適切に支援を行っていく。」旨の説明があった。

公安委員から「いわゆる半グレ等の準暴力団の実態はどうか。」旨の発言があり、警察本部から「準暴力団については、犯罪ごとにメンバーが離合集散を繰り返すなど流動的な要素もあり、暴力団と比較して実態把握が難しい面もあるが、引き続き情報収集等に努めていく。」旨の説明があった。

公安委員から「暴力団への加入者は、現在も暴走族などに加入していた非行少年が多いのか。」旨の説明があり、警察本部から「暴走族を始めとする非行少年グループは暴力団の人的資源となりやすいことから、交通部や生活安全部などとも連携し、県警察全体で暴力団への加入阻止に取り組んでいる。」旨の説明があった。

#### 4 交通事故の発生状況等について（1～3月）

（交通部）

警察本部から「交通事故の発生件数は前年同期比で減少し、死者数は前年同期比で1人増加した。特徴として、歩行中死者数が前年同期比で4人減少した一方で、登下校中における子供の負傷者数が増加した。主な取組としては、交通安全アドバイス集を更新し、新たに作成した「こうつうあんぜんどりる」などと併せて、県内全ての幼稚園、保育園、小学校及び保護者に配布したほか、通学路における取締りを強化した。また、飲酒運転事故の発生件数は前年同期比で減少し、検挙件数は前年同期比で増加した。特徴として、高濃度アルコール保有者による事故が全体の約8割を占めているほか、飲酒運転通報件数とその通報に基づく検挙件数がそれぞれ増加した。主な取組としては、飲酒運転通報訓練マニュアル動画の制作及び関係機関・団体への活用の働き掛けを行ったほか、粕屋町における飲酒運転事故の日に合わせた県下一斉飲酒運転撲滅特別取締り等を実施した。」旨の報告があった。

公安委員から「子供に対する交通安全教育については、より実効性を高めるため、子供の興味や関心を引く内容に配慮してもらいたい。」旨の発言があった。

公安委員から「飲酒運転について、検挙件数の増加と飲酒運転事故の発生件数の減少には相関関係があるのか。」旨の発言があり、警察本部から「指標となる飲酒運転事故は、検挙だけでなく、交通安全教育や広報啓発活動など、様々な取組の結果、減少していくものと考えている。」旨の説明があった。

公安委員から「戸畑警察署では、幼児が飲酒運転の撲滅を訴える動画をSNSで発信しており、こうした動画の抑止効果は高いと思われるので、積極的な取組をお願いする。」旨の発言があった。

#### 5 第61回福岡市民の祭り「博多どんたく港まつり」について

（福岡市警察部）

警察本部から「5月3日及び同月4日、3年ぶりに博多どんたく港まつりが開催される。県警察においては、所要の体制で警備等を行う。」旨の報告があった。

公安委員から「新型コロナウイルス感染症の感染防止対策は、どのように行われるのか。」旨の発言があり、警察本部から「参加者に対しては、主催者からマスクの着用や手指の消毒等の感染防止対策の徹底について要請がなされている。また、観衆に対しては、沿道での観覧自粛について要請がなされている。」旨の説明があった。



